

特定技能者 就労意欲・転職に関する調査

2025年3月



G.A.コンサルタンツ株式会社

▼ 調査概要

- 調査対象：G.A.コンサルタンツが支援する関東在住の特定技能者
- 調査期間：2024年12月15日～2025年1月15日
- 依頼方法：特定技能者に導入の連絡アプリで依頼
- 調査方法：インターネット調査
- 有効回答数：59
- 調査機関：G.A.コンサルタンツ株式会社

※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

▼ サマリ 日本生活について

住宅

日本では外国人が不動産契約を締結する際、携帯電話の通話契約が条件などハードルの高い状況が続いているものの、**50%**以上は個人で賃貸契約しており外国人向けの不動産サービス提供も進みつつある。都市部と地方で物件数と借りやすさには格差がある。

住宅費は2万円以下を希望する候補者が多い一方で、**45.8%**は実際には3万円以上かかっている。調査対象の関東エリアでも都市部と地方、会社の寮か個人契約かで費用負担の幅が大きい事が分かる。

生活の不安

心配することは、病気やけが・収入と生活する上でプリミティブな部分が上位に来ていることから将来的なキャリアやライフステージよりも、現在時点の生活の不安が大きい。

職場

職場では「困っていない」が全体**42%**と上位を占めるが、次に「伝えたいことを日本語で話せない」**12%**で外国人特有の悩みが見てとれる。職場側が伝えられていない悩みを理解することが重要である。職場に期待することとして、「昇給条件の明示」・「キャリアアップ支援」と続いており、キャリアと給与のステップアップの相関がより具体的に明示されることを期待している。「日本語教育」を職場に求めている事で、現場に即した日本語をより理解したいと望んでいることと考察する。

▼ サマリ 就労意欲について

将来の選択

74.6%は特定技能1号に留まらず、より長期の就労意欲を示す。特定技能2号・介護福祉士の取得を目指す母数があきらかになり、職場・登録支援機関の役割は大きい。

日本の選択と理由

特定技能者は86.4%圧倒的に日本での就業を魅力に感じており、母国や他国での就職はわずか15.6%である。

日本で働く理由としては、日本の魅力は安心・便利と処遇の2点に集中している。円安の影響があるものの、給与の魅力はまだあると見てとれる。同時に安心・便利さが評価されている。

転職

特定技能者としての転職経験が23.7%、現在転職を検討している特定技能者は18.6%である。

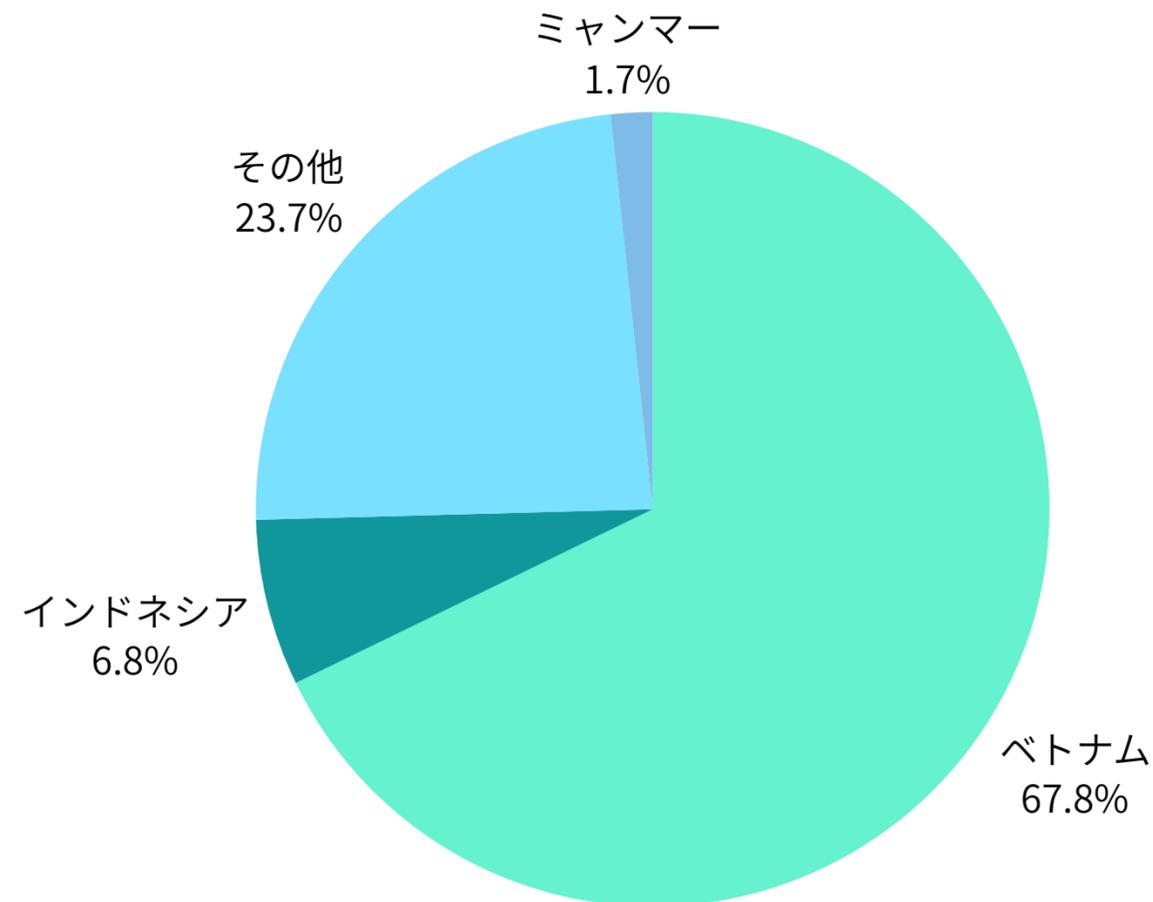
転職の理由

転職経験者、転職を検討している共に転職理由としては「待遇改善」の理由として一番高い。検討しているグループでは「異なる業種へのチャレンジ」も上位の理由となっている。

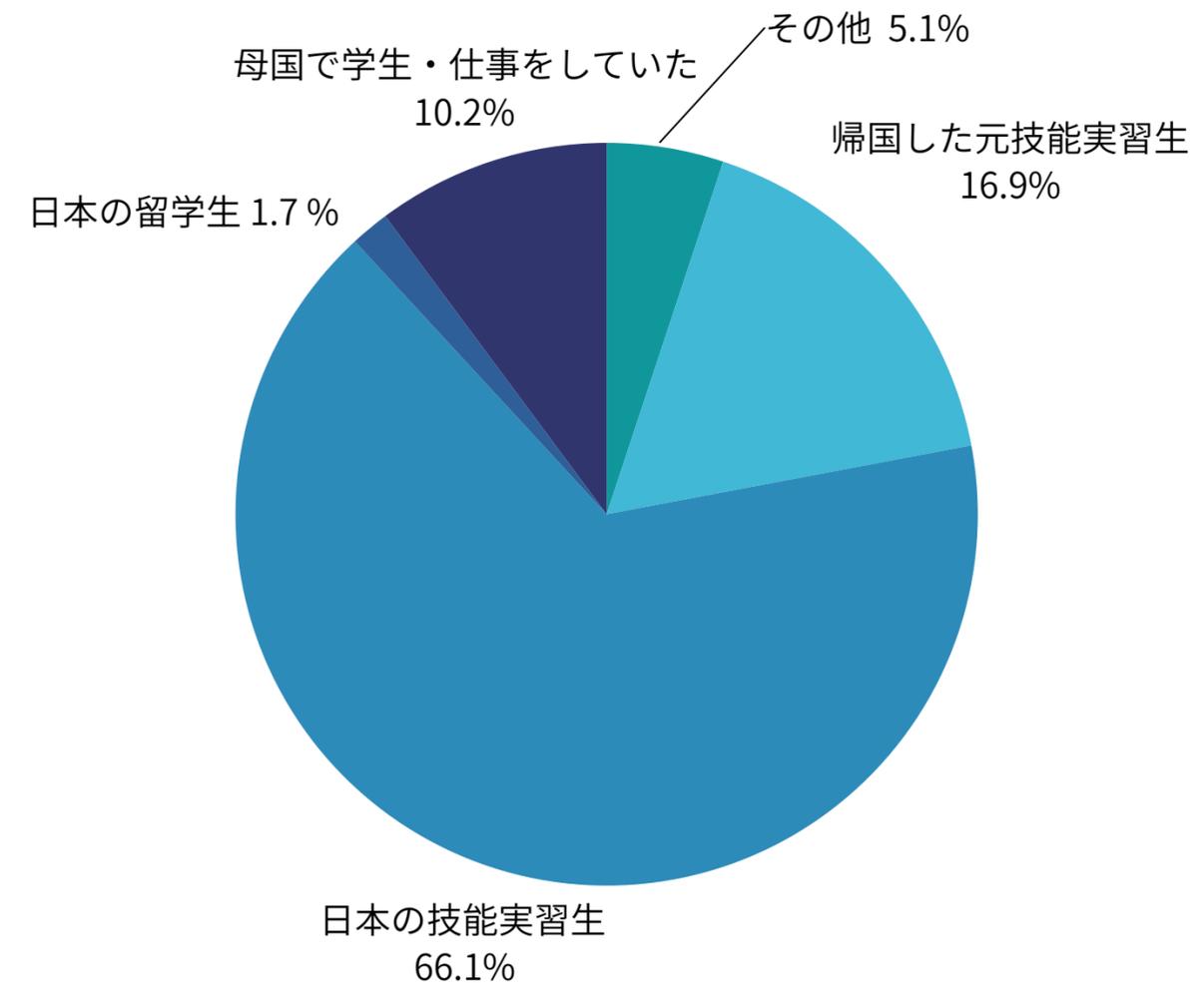
属性

ベトナム人の割合が高いが、その他の国籍ではスリランカ、ドイツ等多国籍の支援実態がうかがえる。
83%が元技能実習生で日本企業での就業経験、日本の生活様式を理解している特定技能者である。

国籍



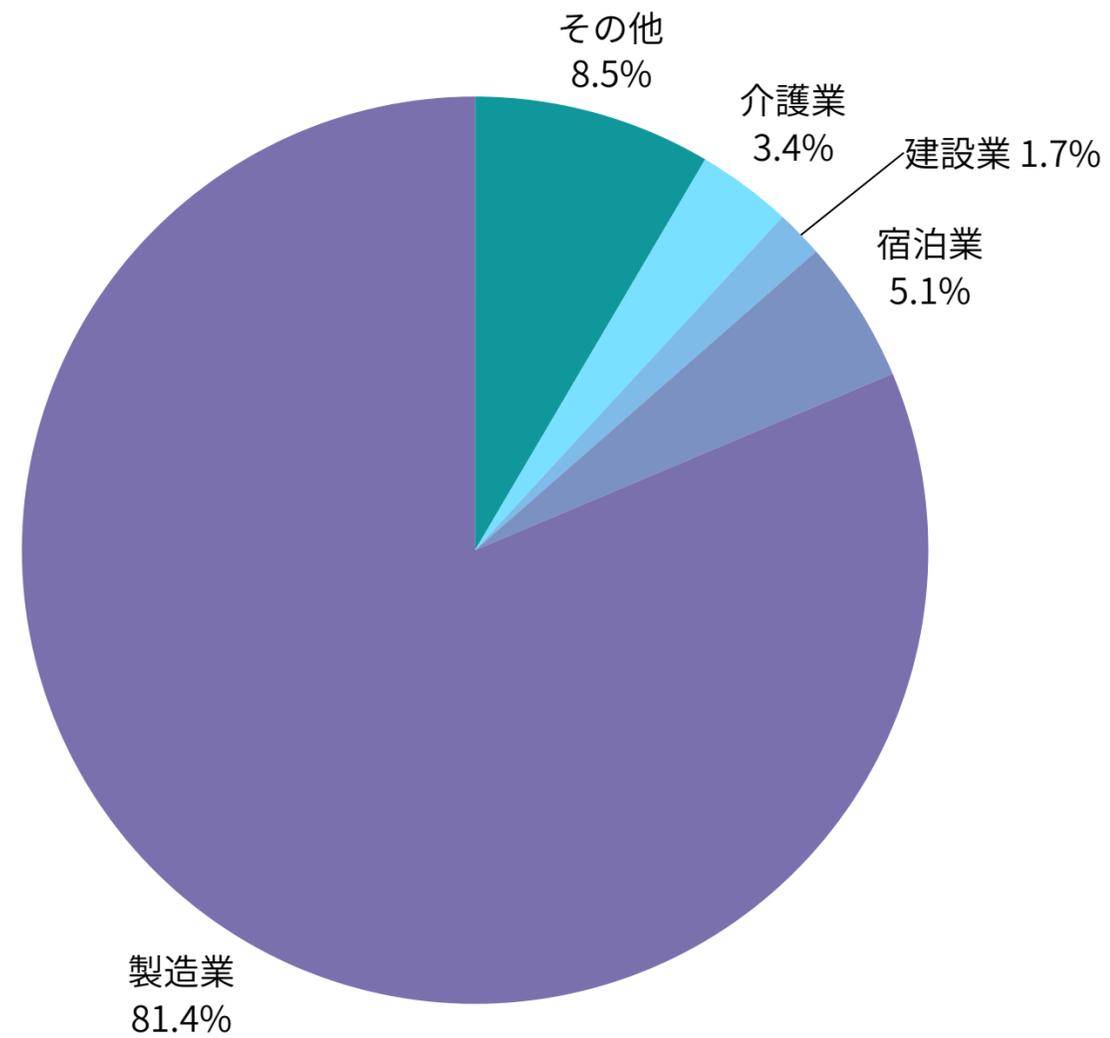
特定技能になる前の身分



属性

弊社の取引先の割合に近く、製造業分野に強い特徴が伺える。

現在の業種

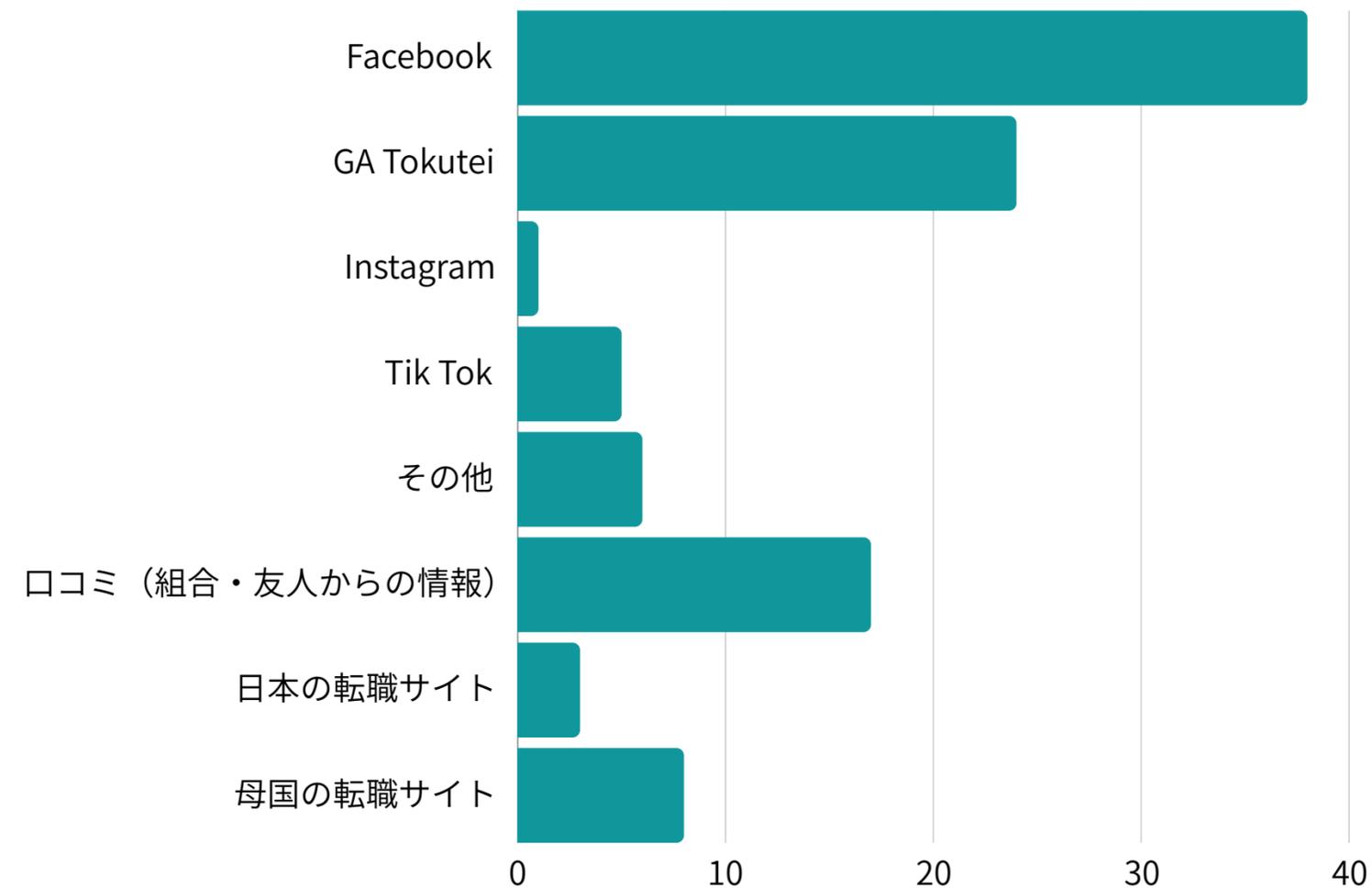


求職活動について

54%がFacebook、口コミを求職の情報元としていることは特徴的。日本人の転職市場においては47.5%が情報収集に転職サイトを利用していること※と比較し、特定技能転者を目指す外国人と特徴が大きく異なる。

※マイナビ株式会社 転職動向調査2024年版

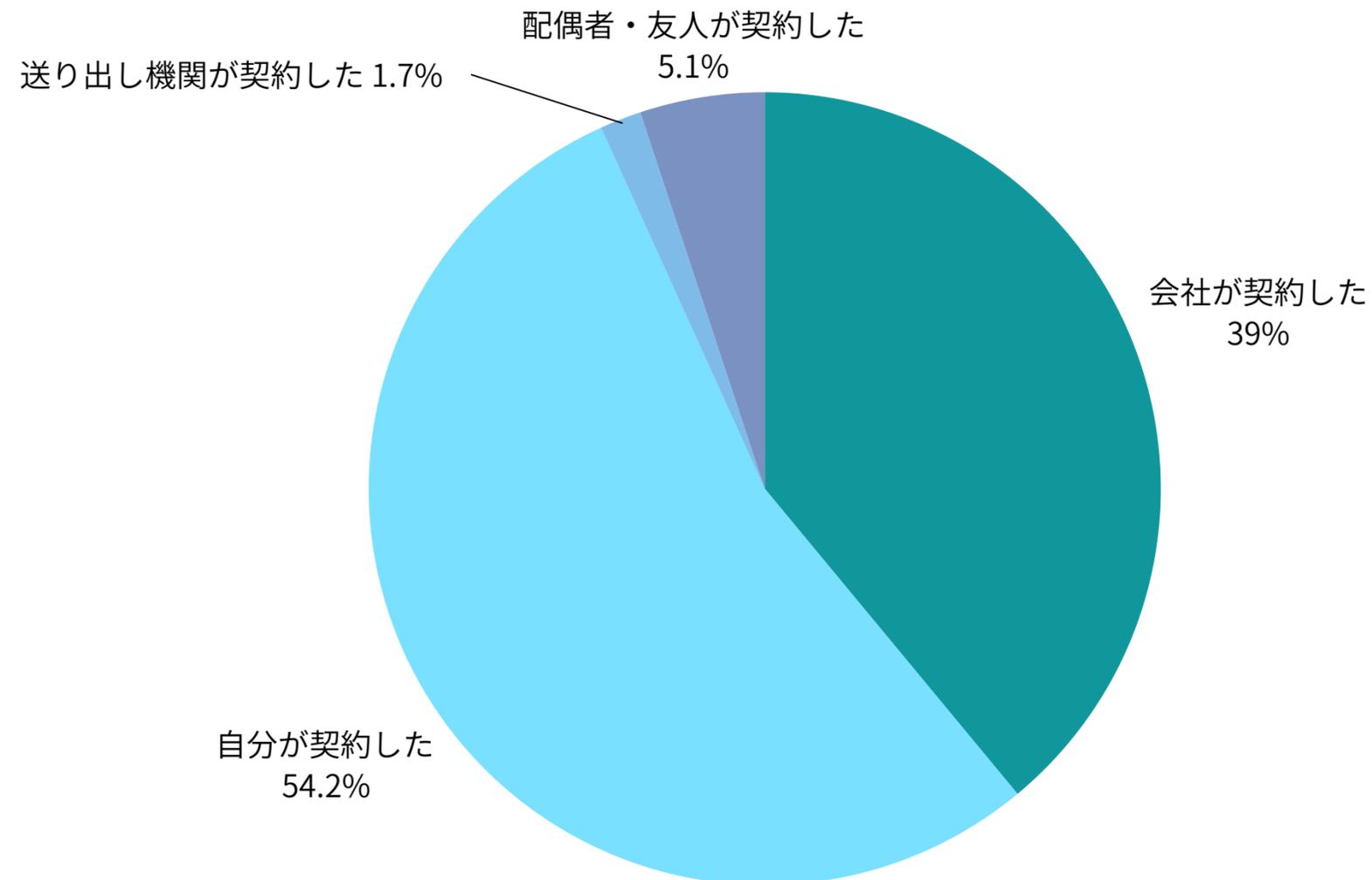
求職活動時に活用した情報



住宅の契約について

日本では外国人が不動産契約を締結する際、携帯電話の通話契約が条件などハードルの高い状況が続いているものの、**50%以上**は個人で賃貸契約しており外国人向けの不動産サービス提供も進みつつある。都市部と地方で物件数と借りやすさには格差がある。

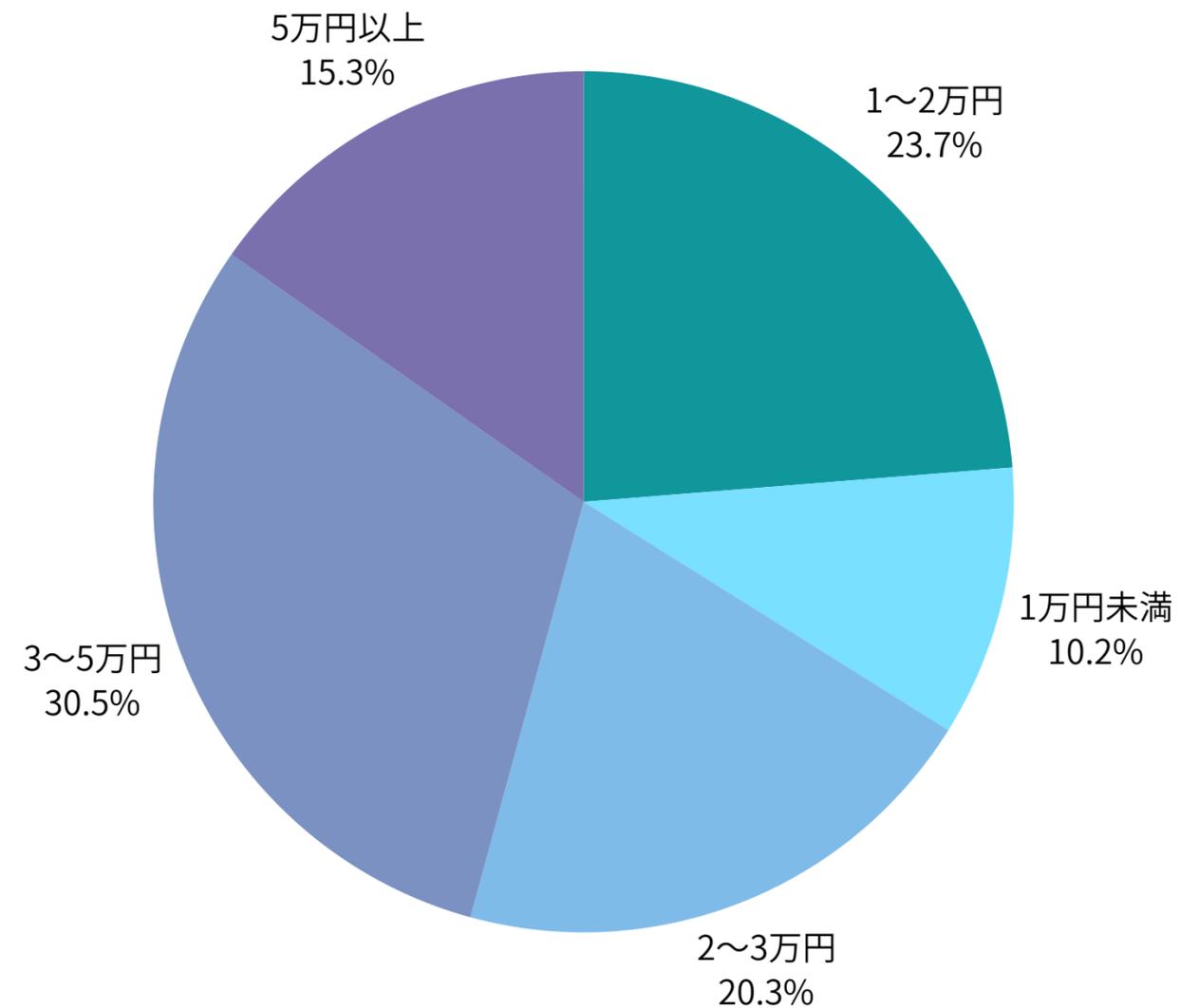
あなたの住宅の契約を教えてください



住宅の契約について

住宅費は2万円以下を希望する候補者が多い一方で、**45.8%**は実際には3万円以上かかっている。調査対象の関東エリアでも都市部と地方、会社の寮か個人契約かで費用負担の幅が大きい事が分かる。

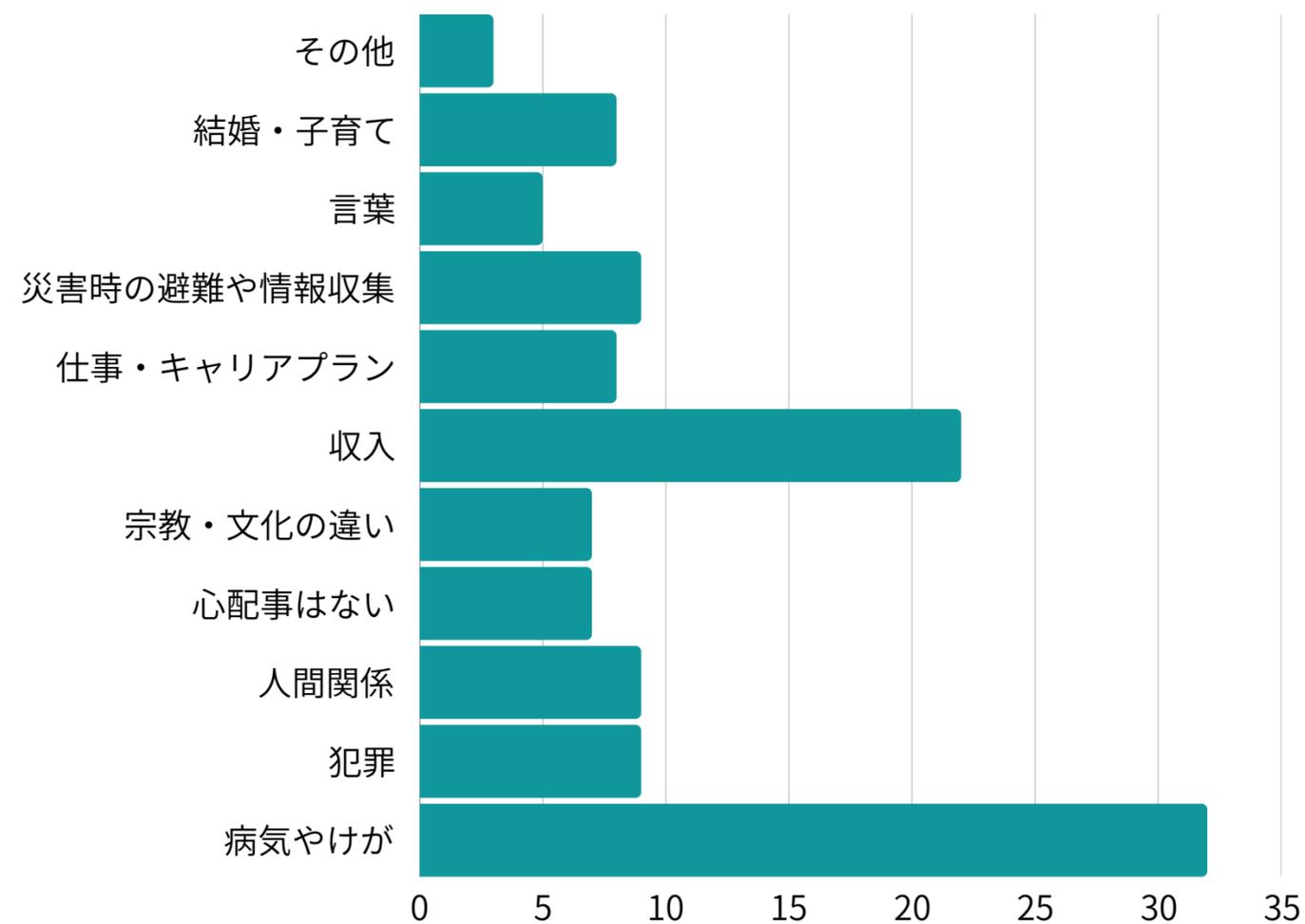
あなたの住宅の家賃（本人負担）を教えてください



生活について

心配することは、病気やけが・収入と生活する上でプリミティブな部分が上位に来ていることから将来的なキャリアやライフステージよりも、現時点の生活の不安が大きい。

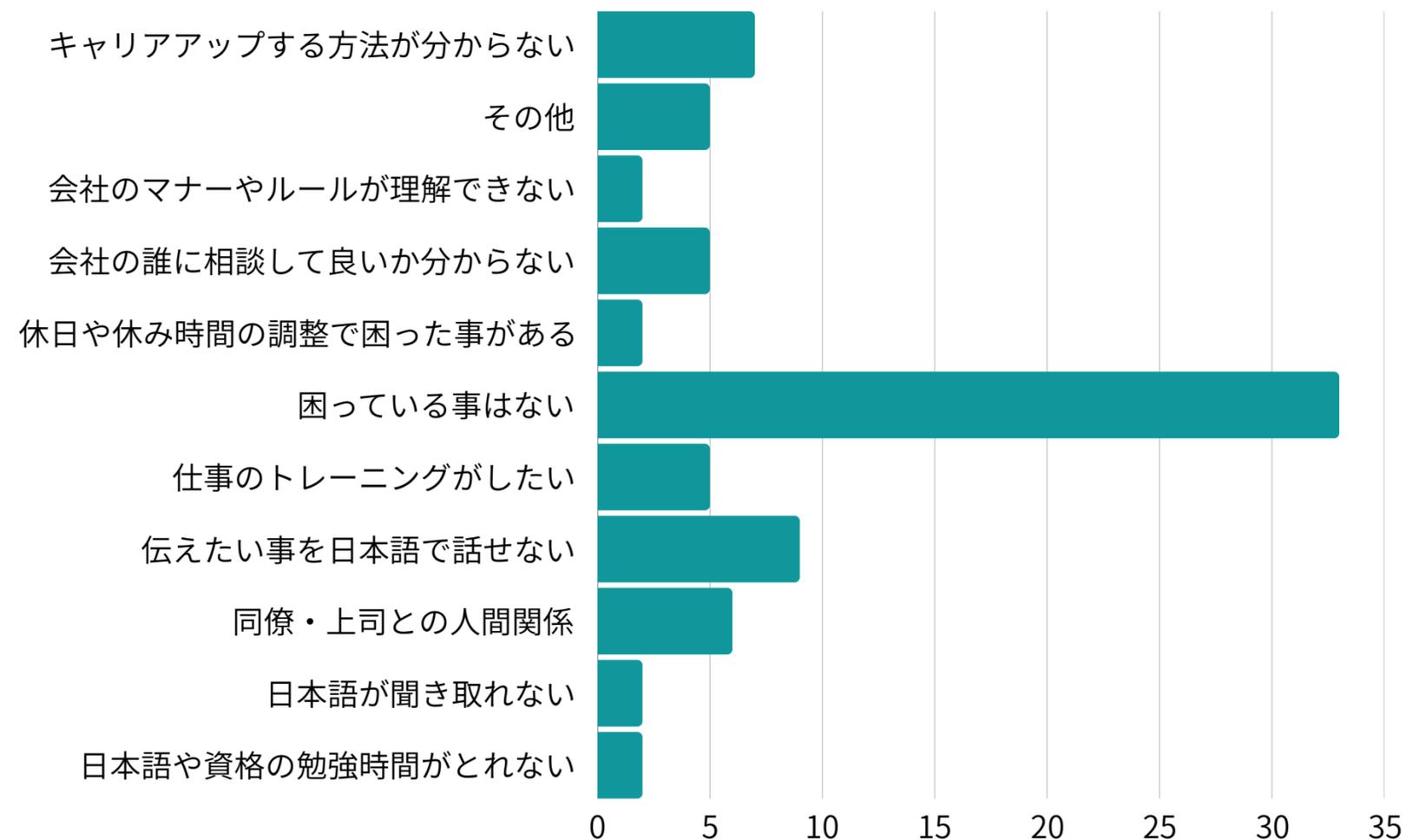
あなたが日本の生活で心配することは何ですか（複数選択）



職場について

職場では困っていないが全体の**42%**と上位を占めるが、次に伝えたいことを日本語で話せない**12%**で外国人特有の悩みが見てとれる。職場側が伝えられていない悩みを理解することが重要である。

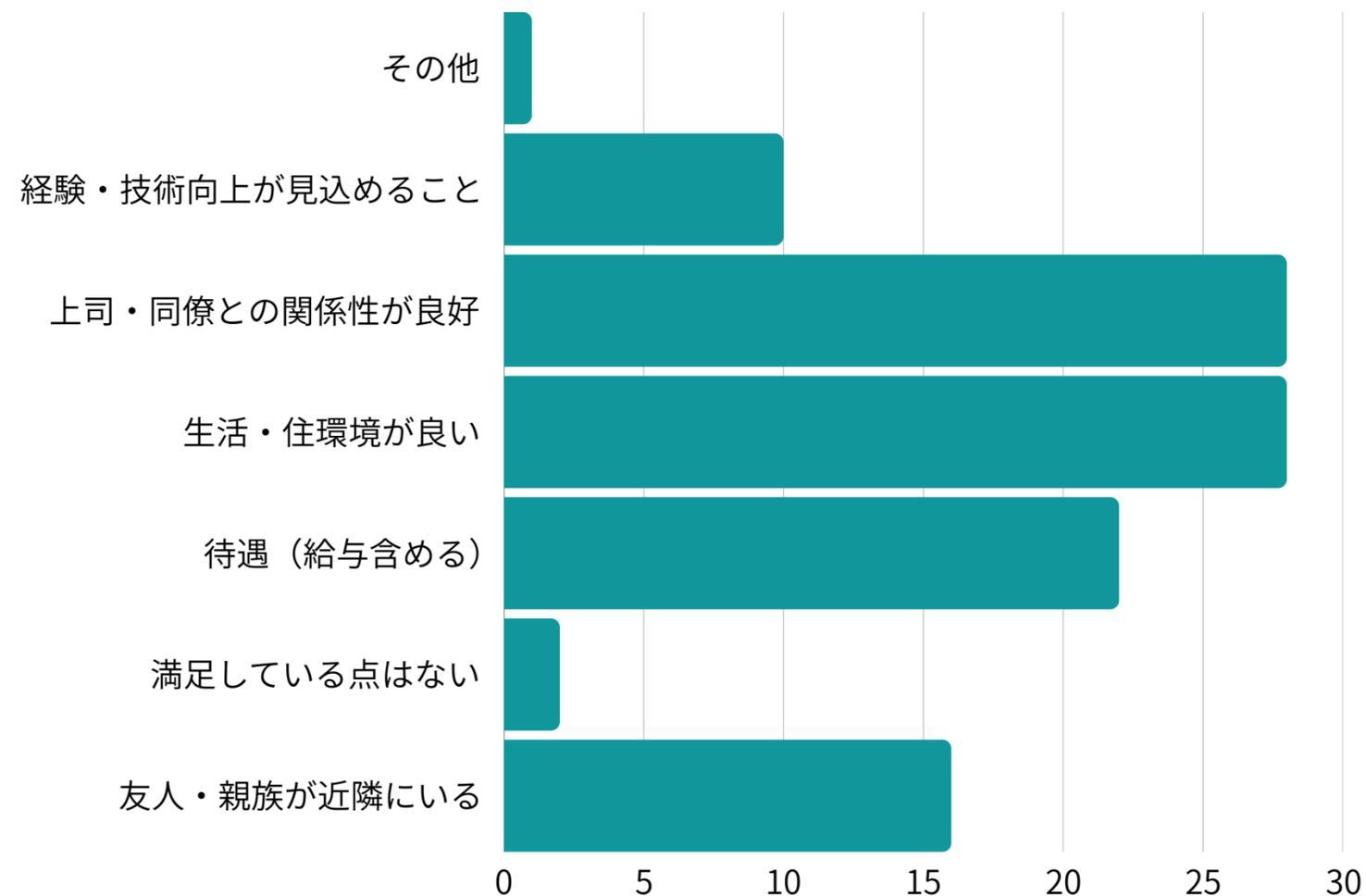
あなたが職場で困っていることは何ですか（複数選択）



職場について

特定技能者は待遇以上に、生活・住環境の良さや職場での人間関係を重視している。日本企業での就業経験者が多く、よりよい環境の提供が特定技能者の満足度が高い傾向に。

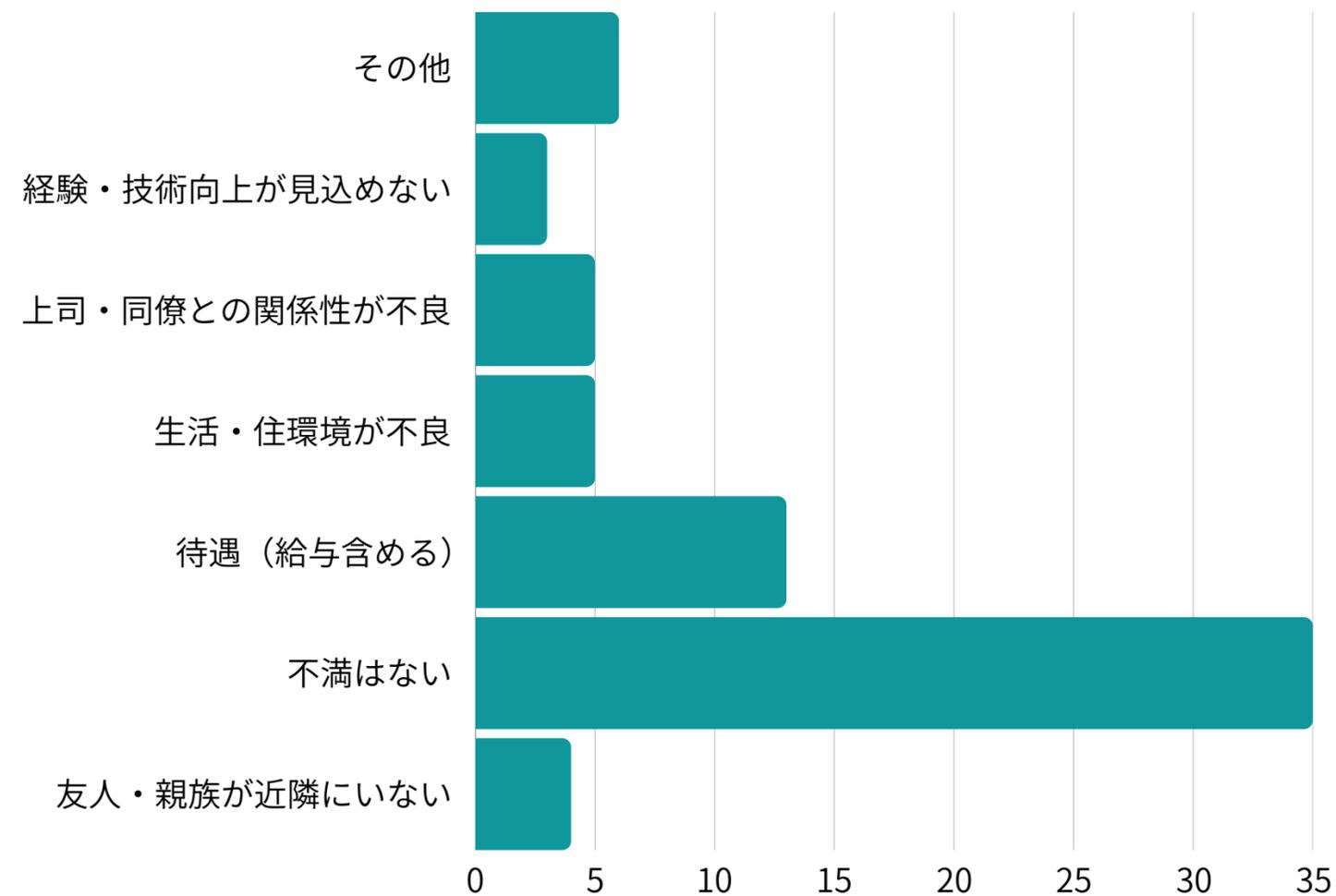
あなたが職場に満足している点は何ですか（複数選択）



職場について

現在の職場に不満がないが**49%**占めているが、待遇への不満が**18%**と2番目に来ている。

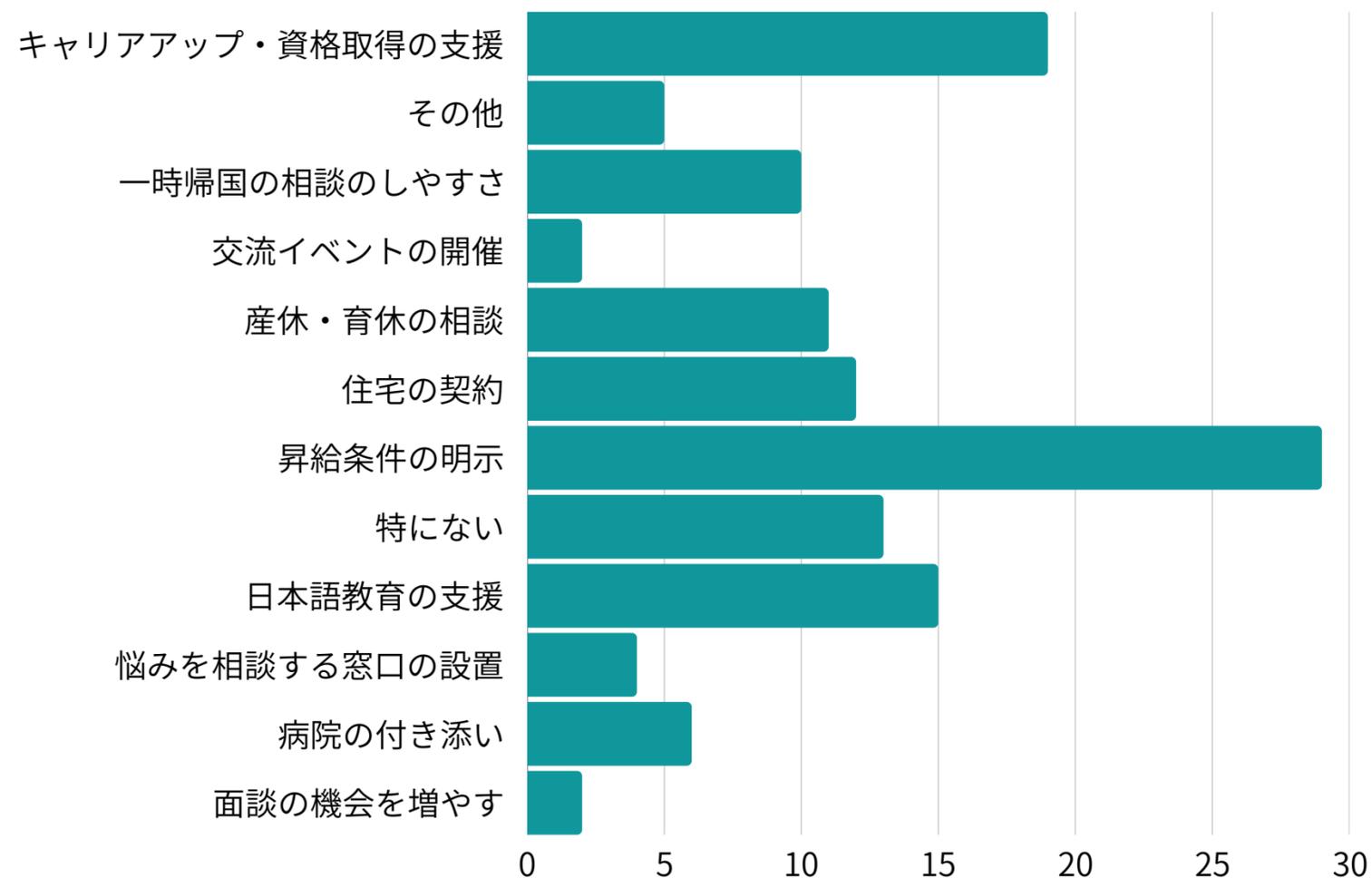
あなたが職場に満足していない点は何ですか（複数選択）



職場について

職場に期待することとして、昇給条件の明示・キャリアアップ支援と続いており、キャリアと給与のステップアップの相関がより具体的に明示されることを期待している。日本語教育を職場に求めている事で、現場に即した日本語をより理解したいと考察する。

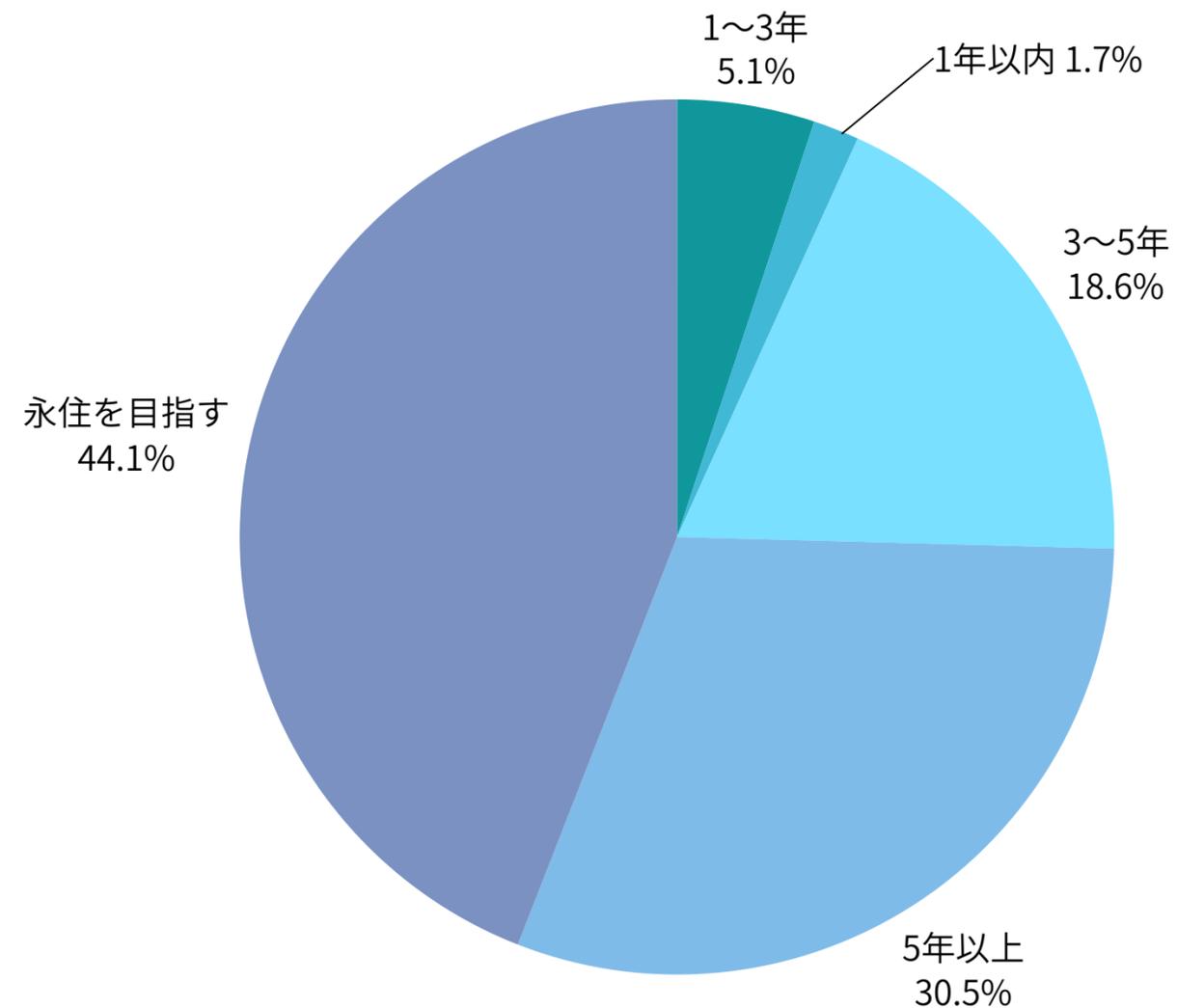
あなたが職場に期待していることは何ですか（複数選択）



将来について

74.6%は特定技能1号に留まらず、より長期の就労意欲を示す。特定技能2号・介護福祉士の取得を目指す母数があきらかになり、職場・登録支援機関の役割は大きい。

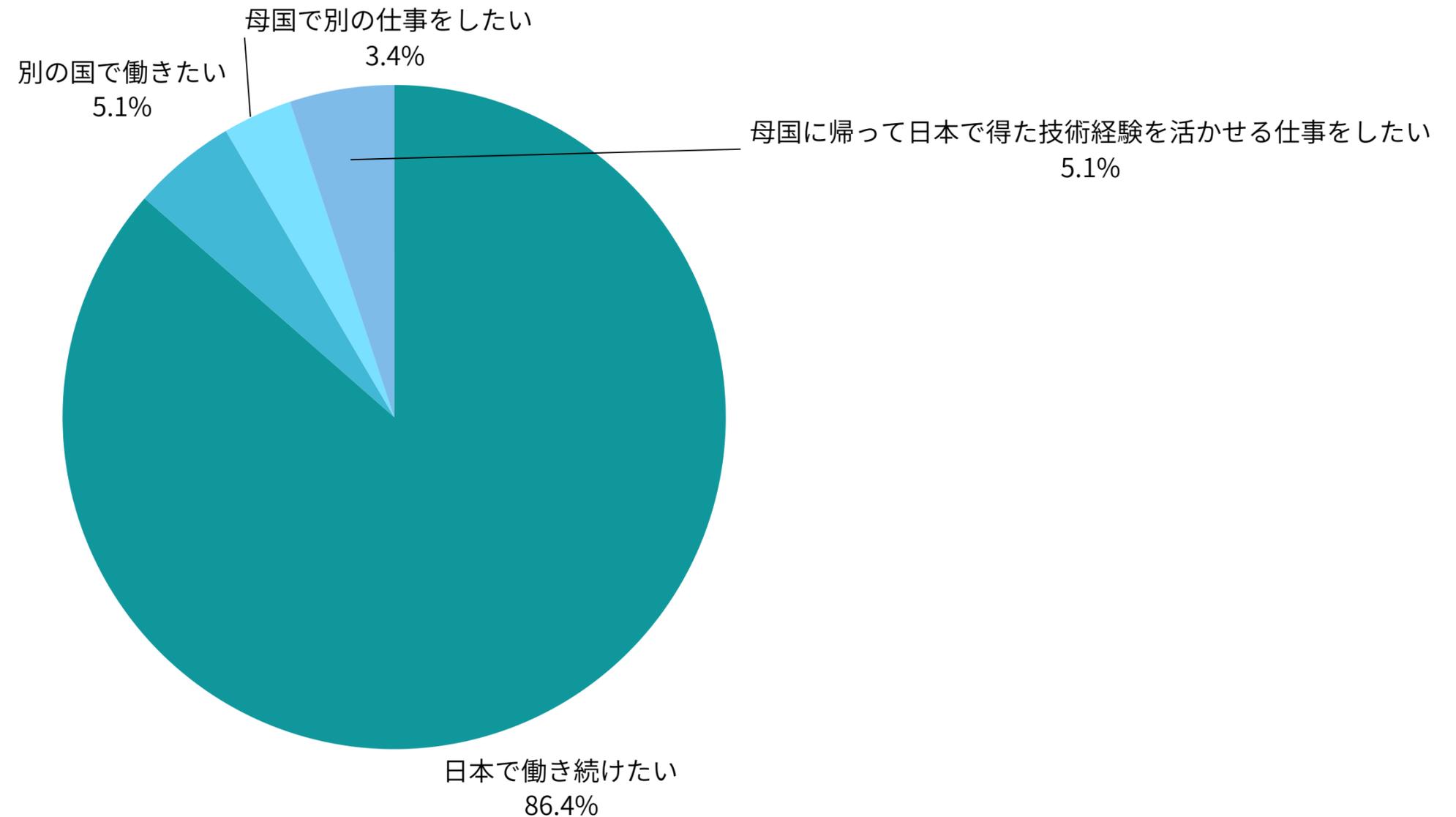
あなたは今後日本にどのくらい滞在しますか



▼ 将来について

特定技能者は**86.4%**圧倒的に日本での就業を魅力に感じており、母国や他国での就職はわずか**15.6%**である。

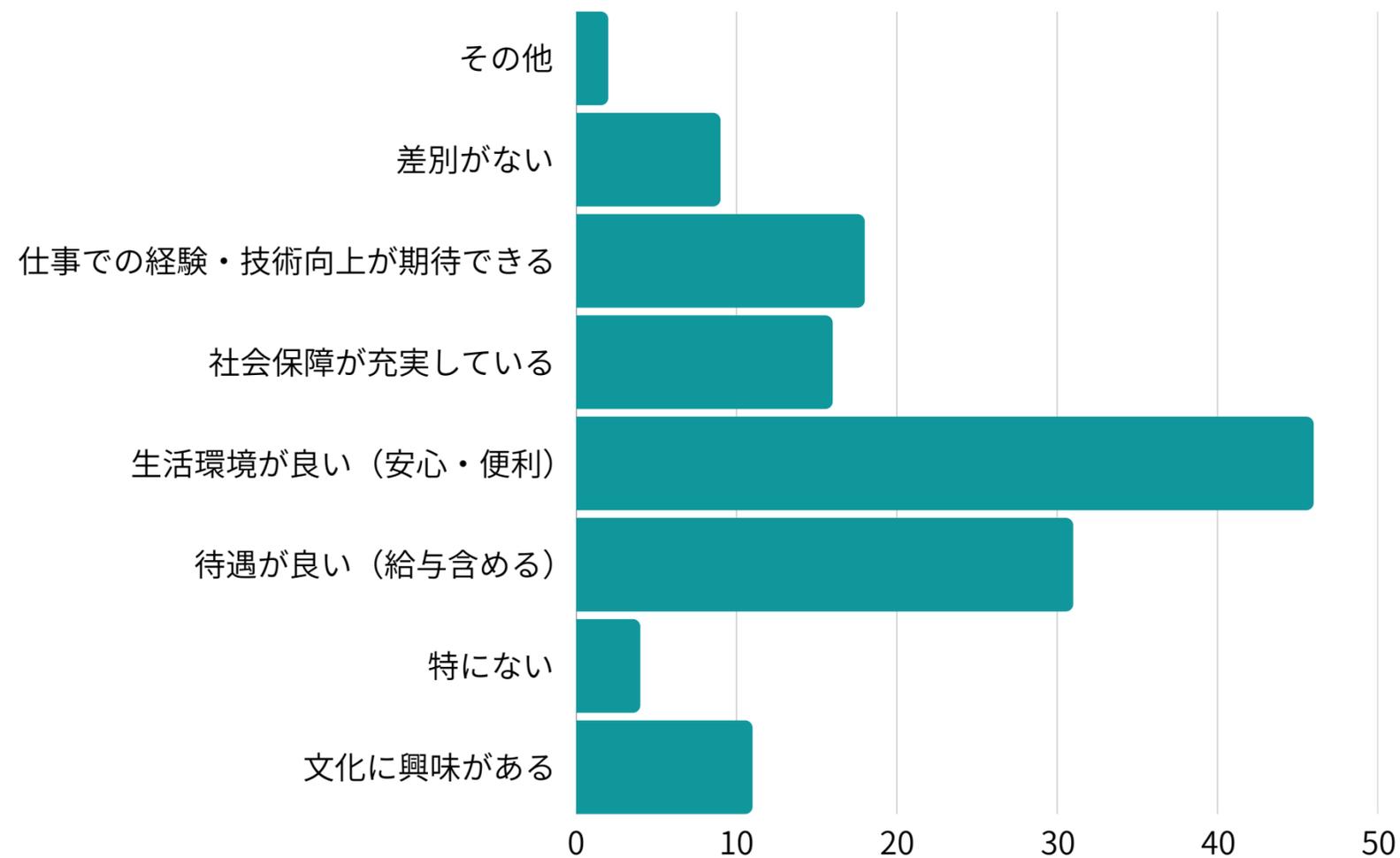
あなたの将来の希望を教えてください



▼ 日本の選択

日本の魅力は安心・便利と処遇の2点に集中している。円安の影響があるものの、給与の魅力はまだあるが、安心・便利さが評価されている。

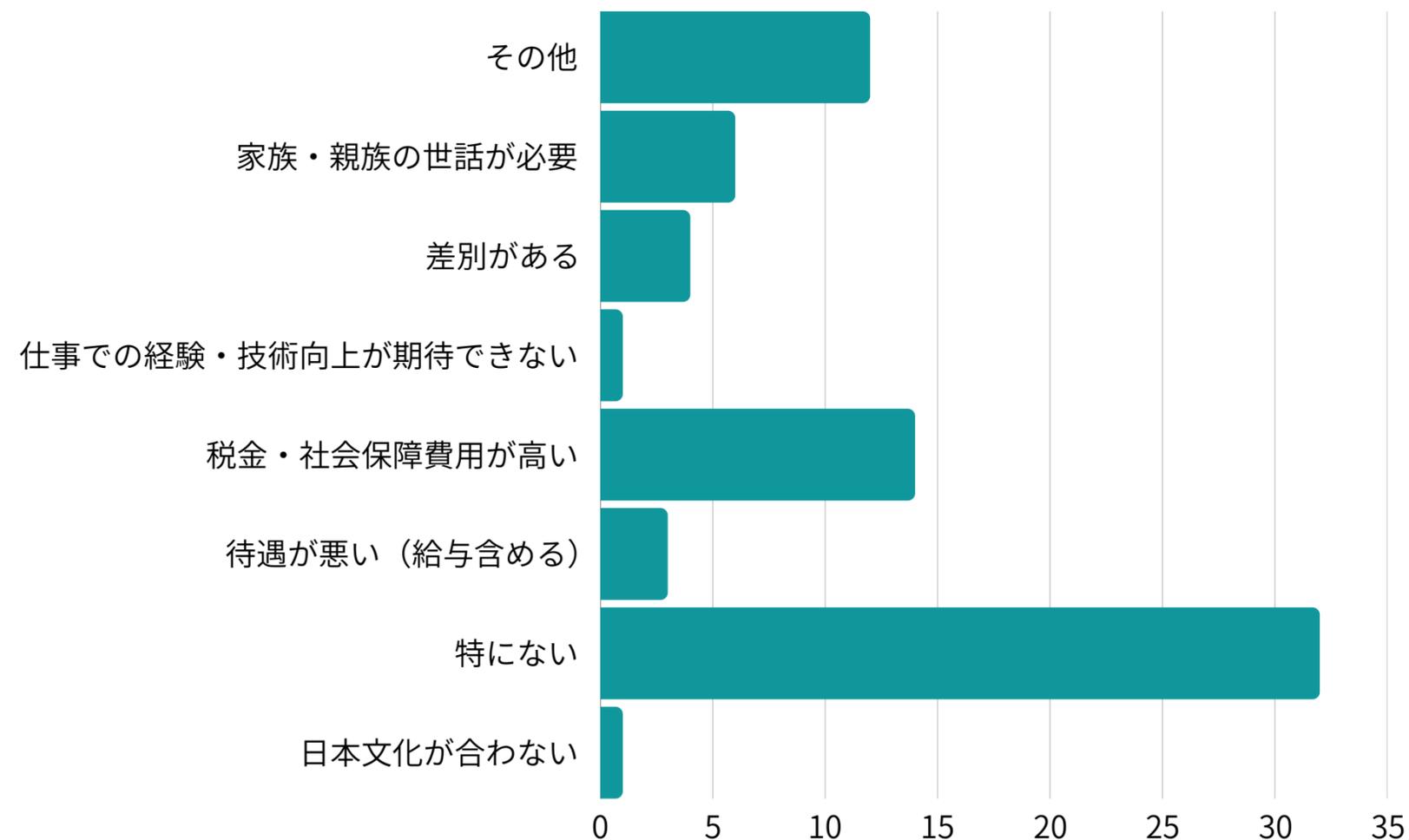
あなたが母国・他国と比べて日本で働く理由（複数選択）



▼ 日本の選択

税金・社会保障費の高さ以外に大きな理由はない。日本文化に馴染めず日本を選択しないは非常に低い結果となり一定程度文化が受け入れられている。

あなたが母国・他国と比べて日本で働かない理由（複数選択）

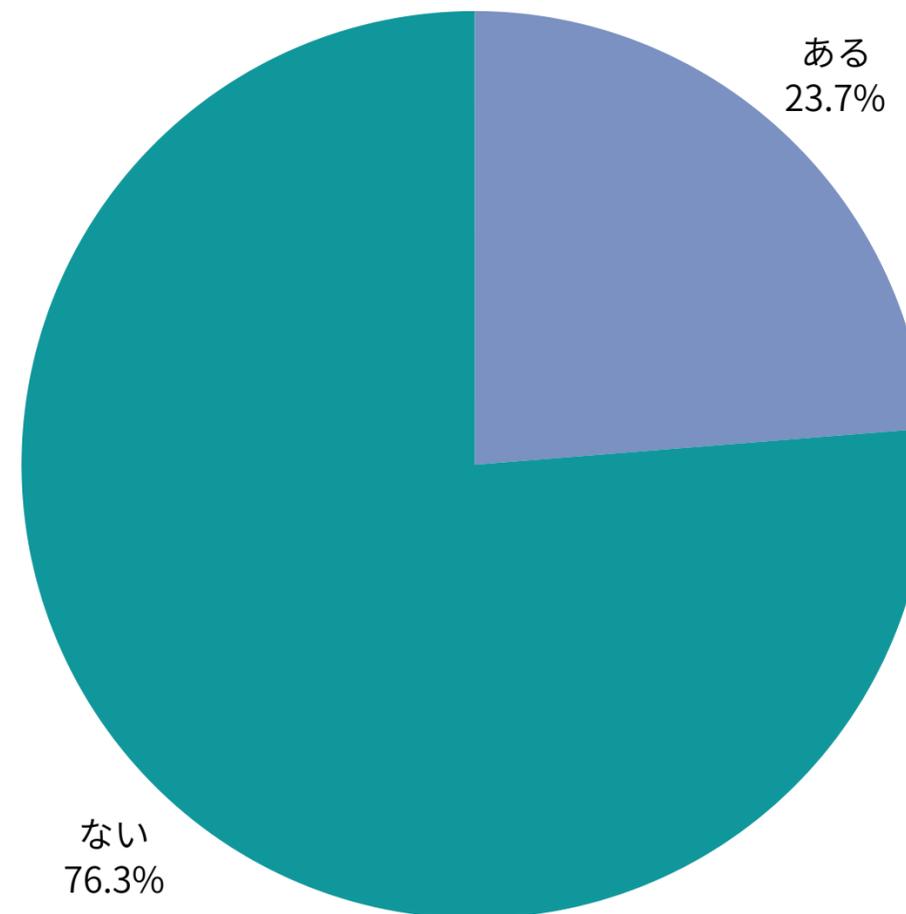


▼ 転職について

特定技能者としての転職経験が**23.7%**に対し、日本での20代正社員の転職率は**13.2%※**である。

株式会社マイナビ 転職者の年代比率推移 / 転職動向調査2024年版 (2023年実績)

特定技能者としての転職した経験

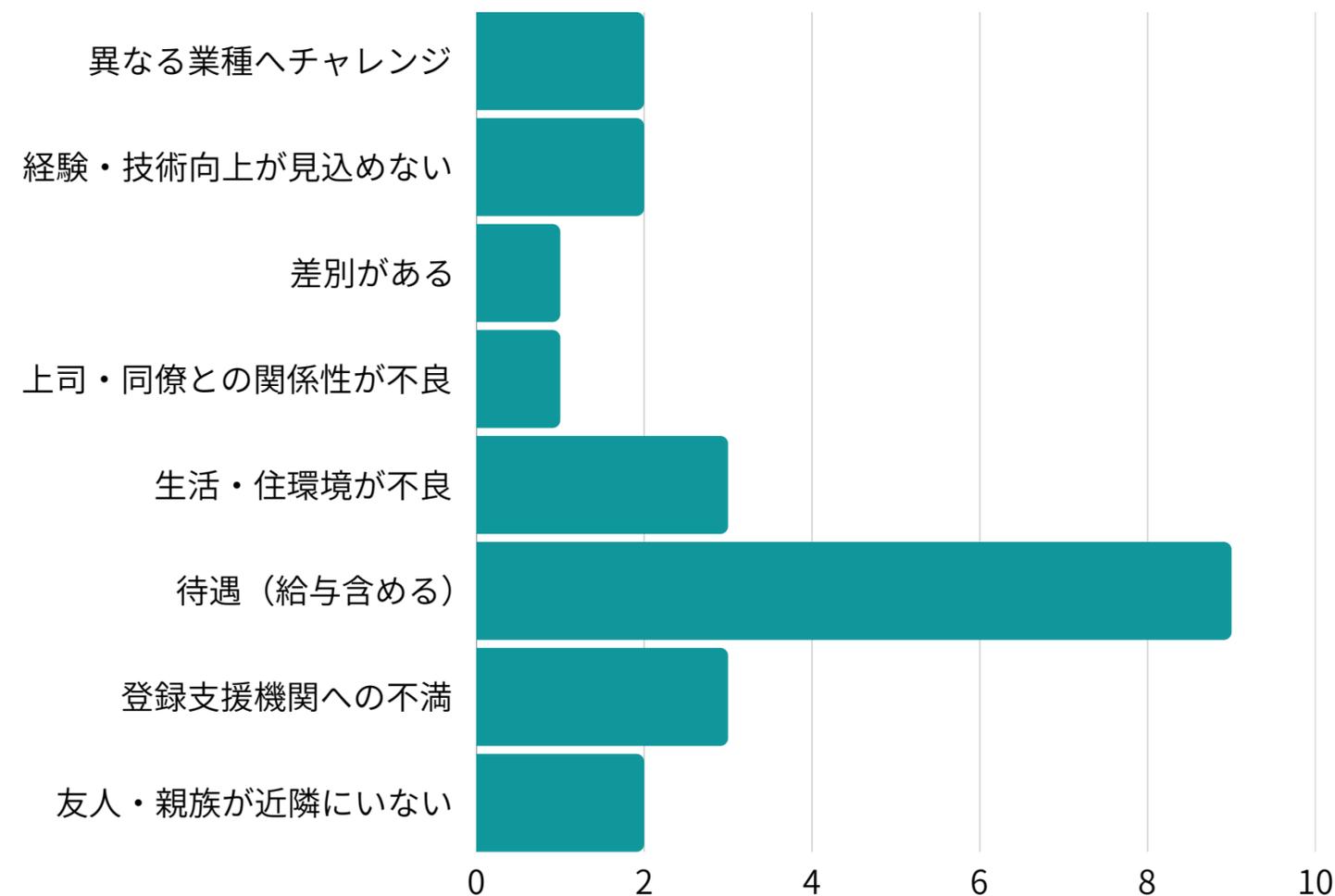


▼ 転職について

転職理由としては待遇改善のための転職が**39%**で理由として一番高い。一方、日本の20代における転職理由の上位は「仕事内容の不满」「処遇の不满」である。

株式会社マイナビ 転職者の年代比率推移 / 転職動向調査2024年版 (2023年実績)

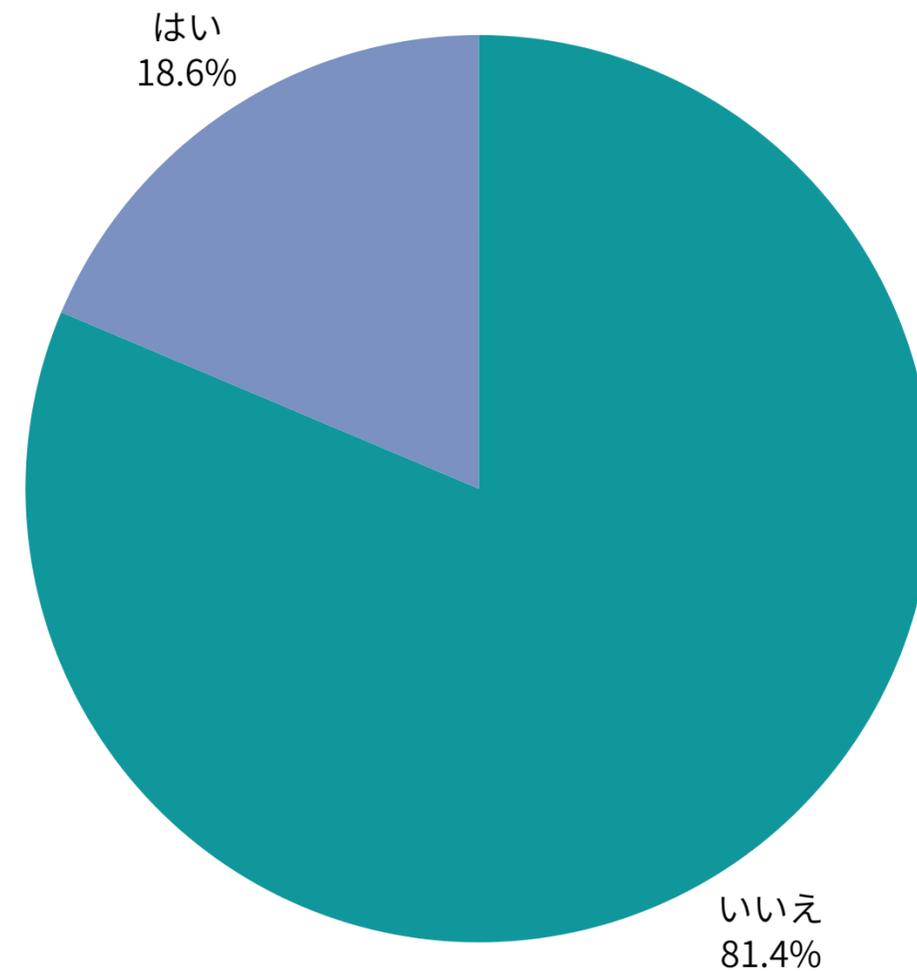
特定技能として転職した理由 (転職あると回答したグループ)



▼ 転職について

現在**18.6%**が転職を検討している。

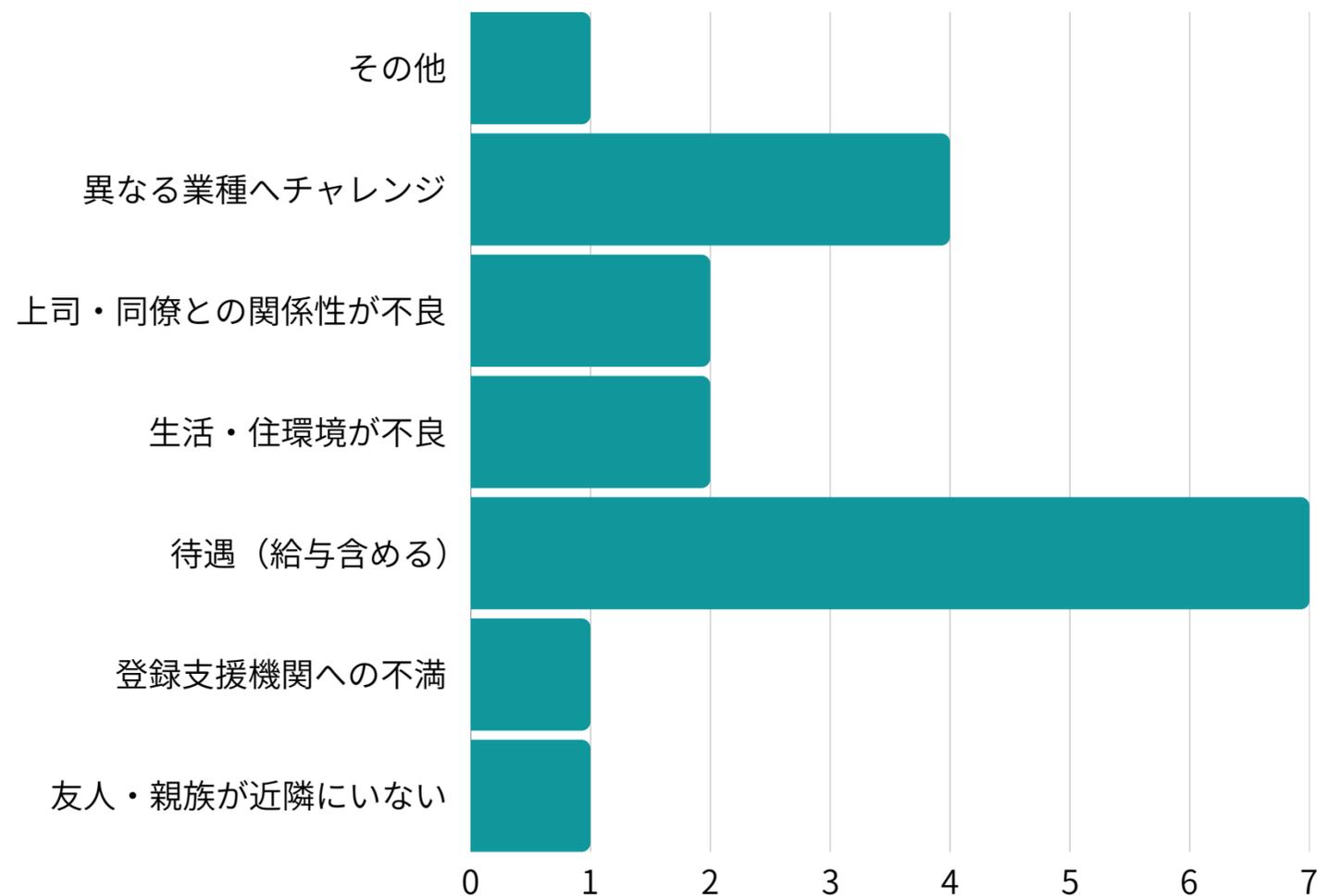
現在転職を検討していますか



▼ 転職について

現在転職を検討しているグループでの転職理由は、「待遇の改善」が1位であるが2位に「異なる業種へチャレンジ」が入り、一定数は異業種への転職を検討している。

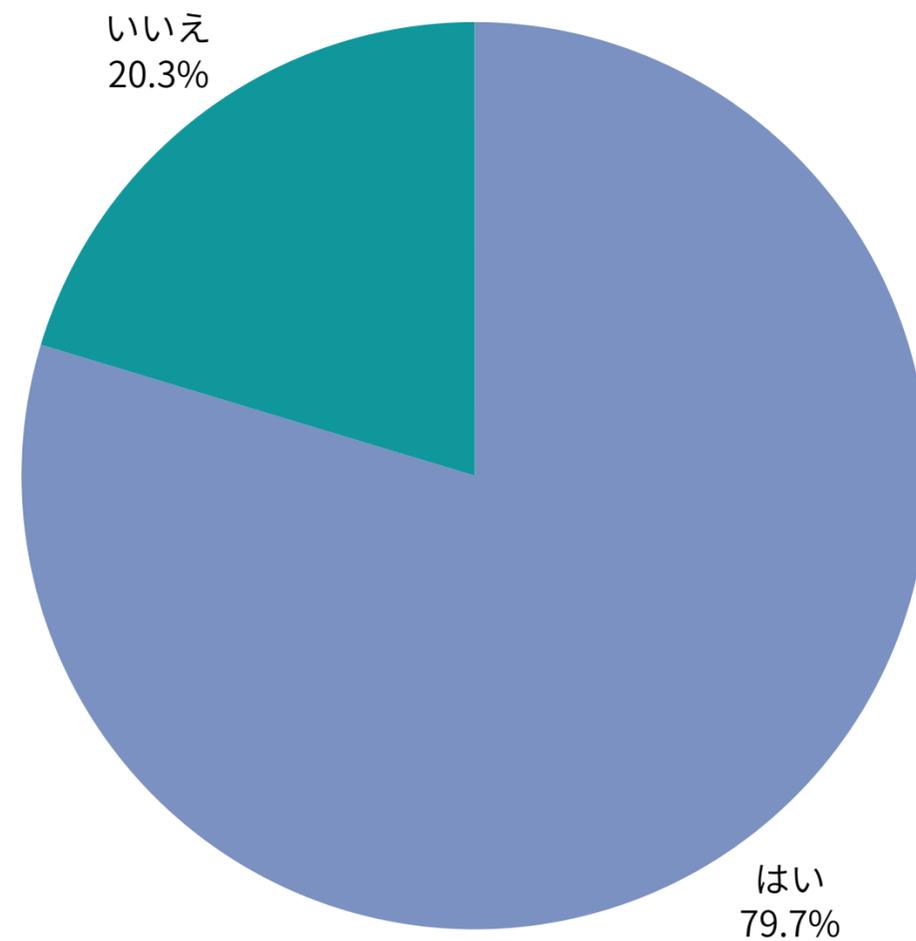
転職を検討する理由（転職を検討しているグループ）



日本語学習

79.7%が何かしらの日本語学習に取り組んでいる。

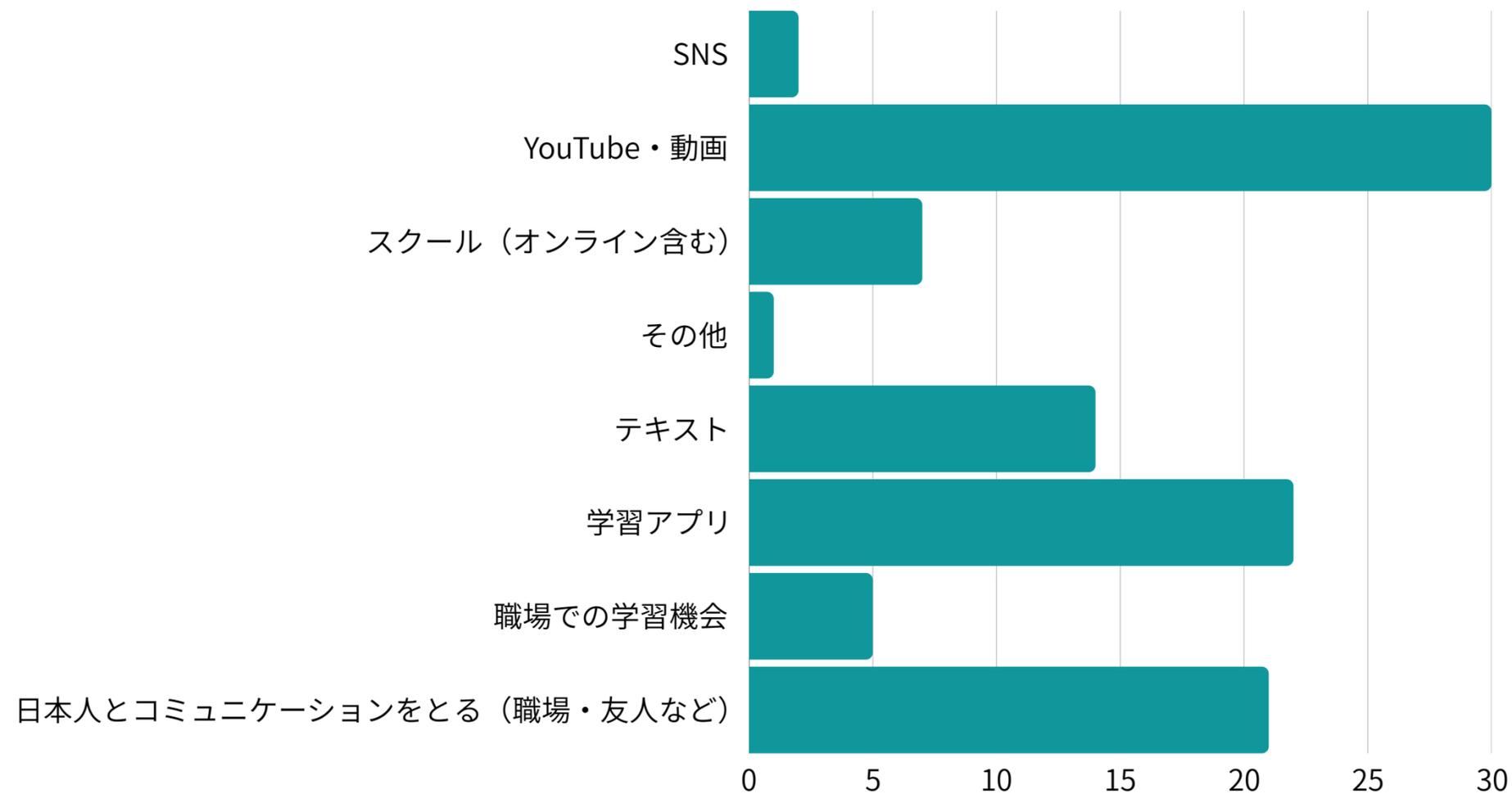
現在、日本語を学習していますか



日本語学習

日本語の学習方法は圧倒的にデジタルデバイスでの学習が浸透しているものの、日本人とのコミュニケーションを図ることも浸透している。

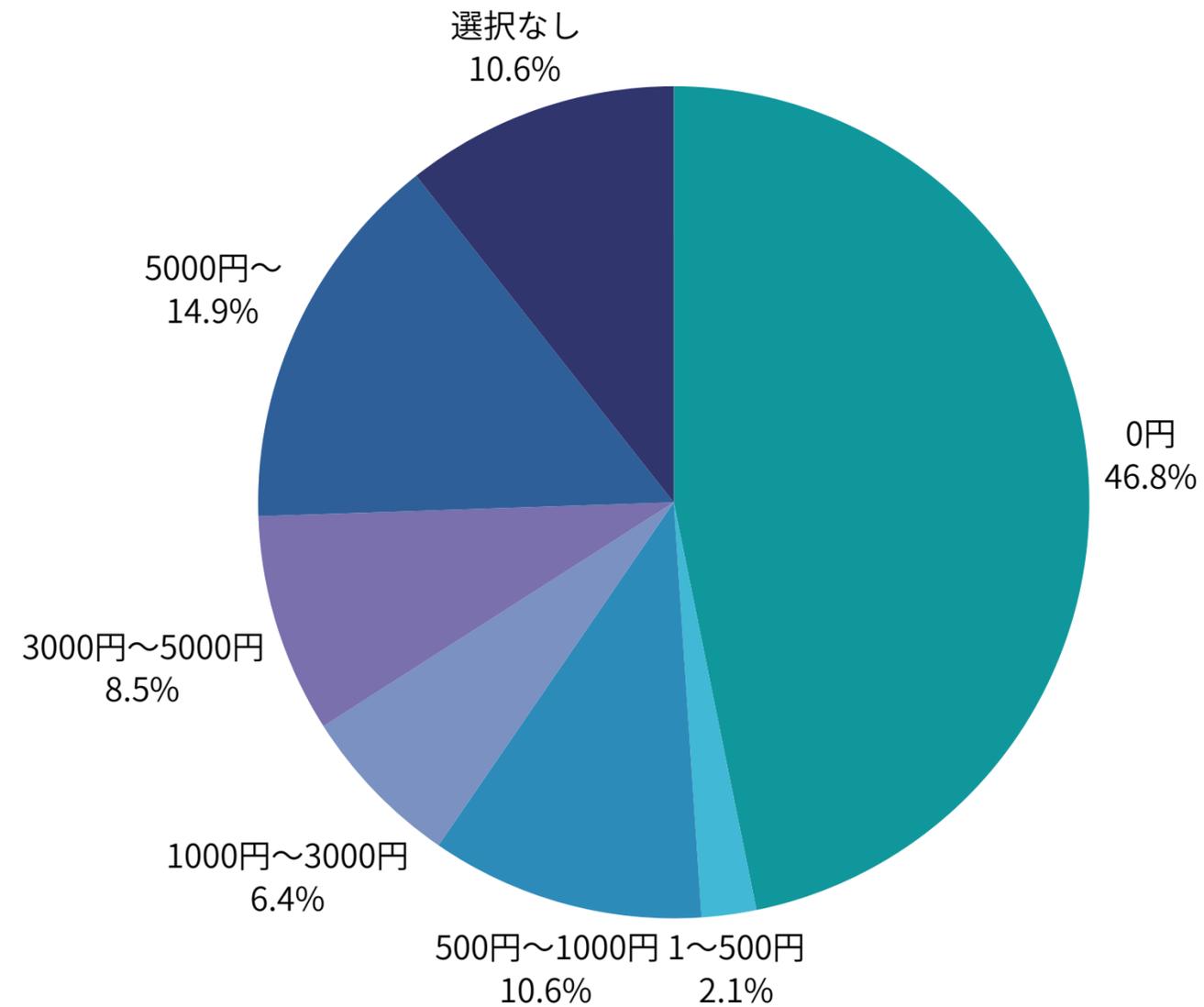
日本語の学習方法（日本語学習をしているグループ）



日本語学習

42.6%が日本語に費用をかけて学習している。また、費用をかけているグループの中では**14.9%**と月額**5,000円**以上が最も多い。

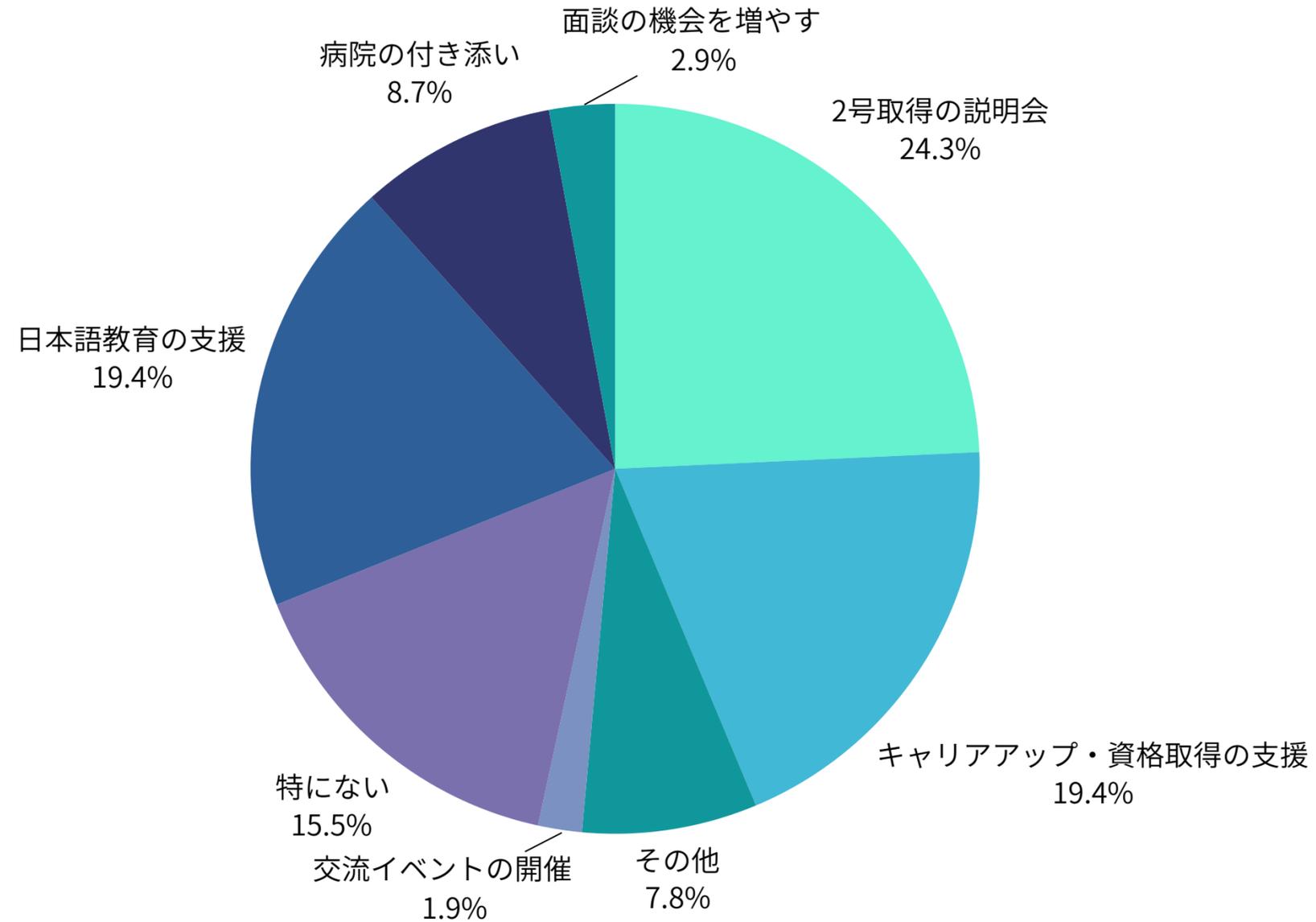
日本語学習の月額費用（日本語学習をしているグループ）



登録支援機関

登録支援機関への期待としては、突発的な生活サポートよりも2号取得やキャリアアップ、日本語教育など長期滞在に向けた支援に期待を寄せている。

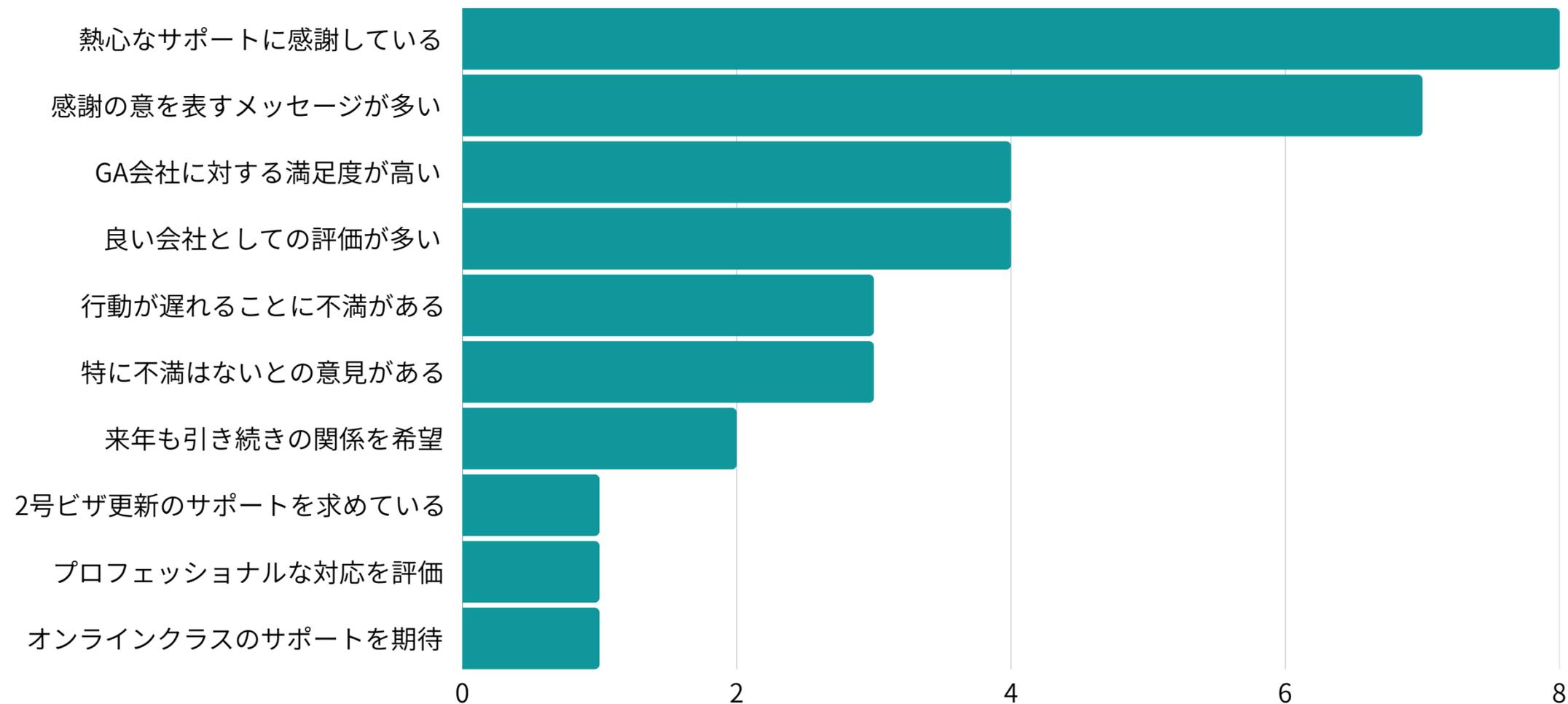
登録支援機関に期待するサポート



登録支援機関

自由記述の意見としては、概ね好意的な意見があるものの、一部「対応が遅い」との意見があり改善すべき点として共有し、体制強化を図る。

弊社へのコメント（自由記述）



本資料に関するお問合せ先

G.A.コンサルタンツ株式会社
市場開発部マーケティングチーム
tokyo_marke.div@gagr.co.jp
03-6300-7840

本資料の著作権は当社に帰属します。そのため、本資料に掲載のデータ・図版等の無断転載を禁じます。転用・引用やご質問等に関しては、上記までご連絡ください。